

消化器外科に、過去に通院・入院された患者さんへ  
( 臨床研究に関する情報 )

当施設では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体または通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」( 令和 3 年 3 月 23 日制定、令和 4 年 3 月 10 日一部改正。 ) に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、検体・診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、下記の連絡先・相談窓口へご照会ください。検体・診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。

この研究は、香川大学医学部倫理委員会で承認されています。また、香川大学医学部長より実施の許可を受けています。

[ 研究課題名 ]

膵頭十二指腸切除術後の急性胆管炎の発生とその治療成績に関する検討

[ 研究の目的 ]

膵頭十二指腸切除術後におこる急性胆管炎は、手術中に吻合した胆管と腸のつながりから菌が入り込んだり、つながりが狭くなったりすることによって病態で、急性胆管炎は膵頭十二指腸切除術後に起こる頻度の高い合併症です。急性胆管炎は敗血症の原因となることがあり、致死的な合併症へ発展するおそれがあります。膵頭十二指腸切除術後の急性胆管炎の関連因子を予測できれば、的確な術後治療につながり、今後膵頭十二指腸切除術を受けられる患者さんの安全性に多いに役立つと考えられます。

[ 研究の方法 ]

○対象となる患者さん

2013 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日の間に当院消化器外科で膵頭十二指腸切除術を受けられた方

○利用する検体・情報

検体：なし

情報：

- ・膵頭十二指腸切除術を受けた時点での患者背景（術前因子）  
年齢、性別、BMI、糖尿病・慢性閉塞性肺疾患・透析・ステロイド・閉塞性黄疸既往の有無、CRP、アルブミン、ビリルビン、eGFR、HbA1c、白血球、ヘモグロビン、血小板
- ・膵頭十二指腸切除術に関する因子（手術因子）  
手術時間、出血量、輸血・血管合併切除の有無、総胆管径
- ・術後因子  
縫合不全の有無

[ 研究組織 ]

須藤 広誠 （香川大学医学部附属病院消化器外科、助教）

岡野 圭一 （香川大学医学部附属病院消化器外科、教授）

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院消化器外科      担当医師 須藤広誠、岡野圭一

電話 087-891-2438 (直通)      FAX 087-891-2439 (直通)